

2018年度インテンシブコース I シラバス

科目名: 高齢がん患者のQOL	担当講師	藤田 佐和(高知県立大学看護学部 教授) 岡本 充子(社会医療法人近森会 統括看護部長 老人看護専門看護師)
	講義時間数	2.0
	講義日時	平成30年10月13日(土) 10:10~12:10
	講義方法	講義
目的	高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴の理解を基盤に、高齢がん患者のQOLを理解し、望む場所での生活の実現に向けた援助ができる能力を身につける	
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢による身体的側面の変化(複合的な疾患を持つことを含む) 2) 加齢による心理的側面の変化 3) 加齢による社会的側面の変化 2. 高齢がん患者が体験する喪失について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 喪失の概念 2) 高齢がん患者にとっての喪失体験 3) 喪失によりもたらされる日常生活への影響 3. 高齢がん患者のQOLについて説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢がん患者のQOLとは 2) 高齢がん患者のQOLのアセスメントの指標と評価 3) 高齢がん患者のQOLを高める要素・低下させる要素 4. 高齢がん患者のQOLの維持・向上にむけた看護について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅で治療・療養を行う高齢がん患者のQOLの維持・向上のための看護 	
備考		

科目名: 高齢がん患者と地域包括ケアシステム	担当講師	安岡しずか (在宅ケアセンターあたご所長 在宅看護専門看護師)
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成30年10月13日(土) 13:10~16:10
	講義方法	講義
目的	高齢がん患者に対し、地域包括ケアシステムの構築と推進を担うチームの一員として、看護職としての役割を果たす能力を身につける	
目標	<p>1. 地域包括ケアシステムにおける高齢がん患者への医療と看護・介護の提供に関して、看護師の役割を説明できる</p> <p>1) 地域包括ケアシステムとは</p> <p>2) 地域包括ケアシステムにおける、高齢がん患者への医療・看護・介護の提供の現状と課題</p> <p>3) 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割</p> <p>4) 地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の役割</p> <p>2. 地域包括ケアシステムにおけるがん医療に携わる多職種との協働について説明できる</p> <p>1) 医療・看護・介護が受けられる場や機関の役割</p> <p>2) 医療・看護・介護のケア提供者の役割</p> <p>3) 地域包括ケアシステムにおける多職種協働を基盤としたチームアプローチ</p> <p>3. 高齢がん患者を支えるソーシャルサポートについて説明できる</p> <p>1) 高齢がん患者を支える地域のフォーマル・インフォーマルなソーシャルサポート</p> <p>2) ソーシャルサポートを活かした高齢がん患者への在宅医療・看護・介護の提供</p>	
備考		

科目名： 高齢がん患者の在宅療養移行支援	担当講師	山本詩帆 (近森病院 地域医療連携センター 在宅看護訪問看護師)
	講義時間数	講義3.0 演習3.0
	講義日時	平成30年10月14日(日) 9:00～12:00 13:00～16:00
	講義方法	講義/演習
目的	高齢がん患者の療養の場の特徴を理解し、在宅療養のために必要な社会資源の利用方法を考え、必要な援助を調整する能力を身につける	
目標	<p>1. 高齢がん患者が療養する場の特性と場の移行について説明できる</p> <p>1) 高齢がん患者が療養する場の現状(病院、自宅、高齢者介護施設)</p> <p>2) 高齢がん患者にとっての場の移行とは (病院－自宅間、自宅－高齢者施設間、病院－高齢者介護施設間)</p> <p>3) 療養の場の移行に伴う治療・生活上の変化</p> <p>2. 在宅医療、在宅看護・介護の仕組みと利用できる社会資源について説明できる</p> <p>1) 在宅医療、在宅看護または介護を受けるための法律、施策</p> <p>2) 病院、自宅または高齢者施設で利用できる介護保険・医療保険</p> <p>(1) 介護保険、医療保険のシステム</p> <p>(2) 介護保険、医療保険の利用のための手続き</p> <p>3) 自宅または高齢者施設で受けられる在宅医療</p> <p>(1) 訪問診療と往診の実際</p> <p>(2) 病診連携、診診連携、多職種連携</p> <p>(3) 在宅医療を受けるための手続き</p> <p>4) 自宅または高齢者施設で受けられる看護、介護</p> <p>(1) 訪問看護と訪問介護の実際</p> <p>(2) 看看連携</p> <p>(3) 訪問看護、訪問介護を受けるための手続き</p> <p>5) 病院から在宅へ移行する場合の移行支援の実際</p> <p>【演習】</p> <p>1. グループワークを通して、高齢がん患者の療養の場の移行に必要な在宅療養移行支援計画を立案することができる</p> <p>1) 在宅療養を行う上で必要な看護やサービスのアセスメントができる</p> <p>2) 高齢がん患者の在宅療養を支援するための多職種協働を基盤とした看護師の役割を明確にできる</p> <p>3) 病院から在宅への療養の場の移行において、療養移行支援計画の立案ができる</p>	
備考		

科目名: 高齢がん患者の在宅生活におけるセルフケアとリハビリテーション	担当講師	平山司樹 (訪問看護ステーションこうせい 在宅看護専門看護師)
	講義時間数	講義1.5 演習2.5
	講義日時	平成30年10月28日(日) 13:00~14:30 14:50~17:20
	講義方法	講義/演習
目的	高齢がん患者の在宅生活におけるセルフケアと、セルフケア能力を維持するためのリハビリテーションの重要性を理解し、必要な援助が提供できる能力を身につける	
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢がん患者が在宅で治療・療養を続けるためのセルフケアの重要性について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) オレムのセルフケア理論 2) 高齢者にとってのセルフケアの重要性 3) がんの治療・症状によるセルフケアへの影響 2. 高齢がん患者のセルフケアのアセスメントと、看護援助について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) セルフケア理論を用いた高齢がん患者のアセスメント 2) セルフケア理論を用いた高齢がん患者への看護援助の実際 3. 高齢がん患者にとってのリハビリテーションの重要性について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) がん医療におけるリハビリテーションの考え方 2) 高齢がん患者が在宅で治療・療養を続けるために必要なリハビリテーション 4. 高齢がん患者の生活環境のアセスメントができる <ol style="list-style-type: none"> 1) 福祉用具、住宅改修に関する基礎知識、利用できる制度・施策 2) 高齢がん患者の生活環境と、改善のための看護師の役割 <p>【演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢がん患者のセルフケア能力を包括的にアセスメントし、セルフケア能力を維持するためのリハビリテーションが実践できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例を通して、高齢がん患者のセルフケア能力をアセスメントできる 2) がんの治療・症状により障害されているセルフケアとその程度をアセスメントできる 3) 高齢がん患者のセルフケア能力を維持・向上するためのリハビリテーション技術を習得できる 	
備考		

科目名： 高齢がん患者の治療 ①がん放射線療法 ②がん化学療法	担当講師	①前川 真弥 (高知医療センター がん放射線療法看護認定看護師) ②池田 久乃 (高知医療センター がん看護専門看護師)
	講義時間数	講義4.0
	講義日時	①平成30年10月27日(土) 13:00～15:00 ②平成30年10月27日(土) 15:20～17:20
	講義方法	講義
目的	在宅での生活を基盤とした、高齢者に対するがん治療の特性を理解し、治療と生活を支える看護実践に必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	《がん放射線療法》 1. がん放射線療法を受ける高齢がん患者の特徴について説明できる 1) 有害事象の発生機序 2) 有害事象のアセスメント 3) 有害事象の予防および出現時の看護援助 4) 患者・家族への教育的関り 2. がん放射線療法を受ける高齢がん患者の生活を支える看護援助について説明できる 1) 放射線療法を受けながら在宅で生活する高齢者に必要な日常生活援助 2) 生活の再構築への支援 《がん化学療法》 1. 高齢がん患者へのがん化学療法の特徴を説明できる 1) 薬物動態と薬物感受性の加齢変化 2) 高齢者の薬物療法における問題 3) 有害事象の発生機序 4) 有害事象のアセスメント 5) 有害事象の予防および出現時の看護援助 6) 患者・家族への教育的関り 2. がん化学療法を受ける高齢がん患者の生活を支える看護援助について説明できる 1) がん化学療法を受けながら在宅で生活する高齢者に必要な日常生活援助 2) 生活の再構築への支援	
備考		

科目名： 高齢がん患者の治療 ③ストーマおよびストーマ周辺の皮膚トラブルに対する看護 ④がんの治療により生じる有害事象への看護(口腔ケア)	担当講師	③片岡 薫 (高知医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師) ④和田 和枝 (久病院 在宅療養指導・口腔機能管理認定歯科衛生士)
	講義時間数	4
	講義日時	③平成30年10月27日(土) 10:00～12:00 ④平成30年10月28日(日) 10:00～12:00
	講義方法	演習
目的	在宅での生活を基盤とした、高齢者に対するがん治療の特性を理解し、治療と生活を支える看護実践に必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	《ストーマ》 1.ストーマおよびストーマ周囲の皮膚トラブルに対する看護技術を獲得することができる 1)ストーマおよびストーマ周辺の皮膚の状態のアセスメント 2)ストーマおよびストーマ周囲の皮膚の状態に応じた装具・物品の選択 3)ストーマおよびストーマ周囲の皮膚の状態に応じたケア方法 《口腔ケア》 1. がんの治療により生じる有害事象に対する看護技術を獲得することができる 1)口腔内の観察およびアセスメント 2)口腔粘膜の状態に応じた物品の選択 3)口腔粘膜の状態に応じた口腔ケア方法	
備考		

科目名： 高齢がん患者の在宅での症状マネジメント ①倦怠感 ②疼痛	担当講師	①竹内 奈々恵 (高知県立大学大学院博士前期課程 緩和ケア認定看護師) ②佐々木 牧子 (高知大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師)
	講義時間数	講義3.0 演習1.0
	講義日時	①平成30年11月3日(土) 10:00～11:30 11:40～12:40 ②平成30年11月3日(土) 13:40～15:10
	講義方法	講義／演習
目的	高齢がん患者の在宅での症状マネジメントの重要性を理解し、必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	《倦怠感》 1. 倦怠感の病態に基づいたアセスメントと治療について説明できる 1) 倦怠感の定義 2) 倦怠感の要因(身体的・心理的・社会的・治療的、老齡症候群) 3) 倦怠感の症状のアセスメント 4) 倦怠感に対する治療 【演習】 1. 倦怠感に対する看護ケア技術を獲得することができる 1) グループワークを通して倦怠感を緩和する看護について考える 2) 倦怠感を緩和するためのマッサージの技術を獲得する 《疼痛》 1. 高齢がん患者の疼痛の病態に基づいたアセスメントと治療について説明できる 1) 疼痛の定義 2) 疼痛マネジメントの重要性 3) 疼痛のメカニズム 4) 疼痛の要因による分類 5) 高齢者の痛みの特徴(訴え方など) 6) 高齢者の疼痛アセスメント 7) 疼痛に対する薬物療法 8) 疼痛緩和に用いる薬剤の管理 2. 疼痛緩和のための看護について説明できる(痛みの閾値を上げるなど)	
備考		

科目名： 高齢がん患者の在宅での症状マネジメント ③嘔気・嘔吐 ④呼吸困難	担当講師	③岡田 明子 (高知大学医学部附属病院 がん看護専門看護師) ④田尻 信子 (がん看護専門看護師) 山田 康弘 (訪問看護ステーションLOCAL 理学療法士)
	講義時間数	講義3.0 演習2.0
	講義日時	③平成30年11月23日(金) 10:30～12:00 ④平成30年11月24日(土) 13:10～14:40 15:00～17:00
	講義方法	講義／演習
目的	高齢がん患者の在宅での症状マネジメントの重要性を理解し、必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	《嘔気・嘔吐》 1. 高齢がん患者の嘔気・嘔吐の病態に基づいたアセスメントと治療について説明できる 1)嘔気・嘔吐の定義 2)嘔気・嘔吐の要因 3)嘔気・嘔吐のメカニズム 4)嘔気・嘔吐のアセスメント 5)嘔気・嘔吐に対する治療 2. 嘔気・嘔吐の緩和のための看護について説明できる(患者教育・セルフマネジメントなども含む) 《呼吸困難》 1. 高齢がん患者の呼吸困難の病態に基づいたアセスメントと治療について説明できる 1)呼吸困難の定義 2)呼吸困難の要因 3)加齢による呼吸機能の変化 4)高齢がん患者の呼吸困難の特徴(病態と心因性の両面から) 5)呼吸困難のアセスメント(日常生活動作の面からも) 6)呼吸困難に対する治療 【演習】 1. 呼吸困難の緩和のための看護技術とリハビリテーション技術が獲得できる 1)安静時における呼吸困難への対応 2)日常生活動作による呼吸困難への対応 3)気道分泌物の貯留・喀出困難による呼吸困難への対応	
備考		

科目名: 高齢がん患者とコミュニケーション	担当講師	門田 麻里 (高知県立大学看護学部 特任助教 がん看護専門看護師)
	講義時間数	1.5
	講義日時	平成30年11月4日(日) 10:30~12:00
	講義方法	講義
目的	高齢がん患者とのコミュニケーションの重要性を理解し、対象の状況に応じたコミュニケーション能力を身につける	
目標	1. 高齢がん患者とのコミュニケーションの特徴について説明できる 1) 高齢者のコミュニケーションの特徴と問題 2) 高齢者とコミュニケーションを行う際の関り方 3) 高齢者がん患者に起こりやすいコミュニケーション障害 (1) がんの治療に伴い生じるコミュニケーション障害と要因 (2) 療養の場の環境により生じる、コミュニケーション障害と要因 (3) コミュニケーション障害がもたらすがんの治療への影響 (4) コミュニケーション障害がもたらす療養生活への影響 2. 高齢がん患者への看護実践で活用できるコミュニケーション技術について説明できる 1) 高齢がん患者とのコミュニケーション技術 2) がんによる症状や治療による影響がある場合のコミュニケーションの工夫	
備考		

科目名: 高齢がん患者の認知とケア	担当講師	山本 昌子 (岡山大学病院 認知症看護認定看護師)
	講義時間数	講義2.0 演習1.5
	講義日時	平成30年11月4日(日) 13:00~15:00 15:10~16:40
	講義方法	講義/演習
目的	高齢者の認知機能の変化について理解し、在宅療養を行う高齢がん患者に必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	<p>1. 認知症の高齢がん患者の特徴とアセスメントについて説明できる</p> <p>1) 認知症の定義・原因疾患 2) 認知症の主症状(「中核症状」「行動・心理症状(BPSD)」) 3) 認知症によるがん治療への影響 4) 認知症のアセスメント 5) 認知症の治療</p> <p>2. 高齢がん患者のせん妄の病態に基づいたアセスメントについて説明できる</p> <p>1) せん妄の定義 2) せん妄の病態 3) せん妄の要因 4) せん妄によるがん治療への影響 5) せん妄のアセスメント 6) せん妄の治療</p> <p>3. 高齢がん患者のうつの病態に基づいたアセスメントについて説明できる</p> <p>1) うつの定義 2) うつの要因 3) 高齢者におけるうつの特徴(身体的不調、不安や焦燥感が強い、妄想、活動性の低下など) 4) うつによるがんの治療への影響 5) うつのアセスメント 6) うつの治療</p> <p>【演習】</p> <p>1. 高齢がん患者の認知症・せん妄・うつの特徴を踏まえ、鑑別ができる 2. グループワークを通して、高齢がん患者の認知症・せん妄・うつ病への看護を考えることができる</p>	
備考		

科目名: 高齢がん患者の意思決定支援	担当講師	北添 可奈子 (高知医療センター がん看護専門看護師)
	講義時間数	講義2.0 演習2.0
	講義日時	平成30年11月23日(金・祝) 13:00～15:00 15:10～17:10
	講義方法	講義／演習
目的	高齢がん患者への意思決定支援の重要性を理解し、必要な支援を行うための能力を身につける	
目標	<p>1. 高齢がん患者の意思決定能力のアセスメントについて説明できる</p> <p>1) 意思決定能力に影響を与える要因</p> <p>2) 意思決定能力のアセスメント</p> <p>2. 高齢がん患者の意思決定支援について説明できる</p> <p>1) 高齢がん患者の意思決定支援における看護師の役割</p> <p>2) 高齢がん患者の意思決定支援に必要な多職種協働</p> <p>3) 高齢がん患者の意思決定支援の実際</p> <p>3. 高齢がん患者の治療・在宅療養において看護師が行うアドバンス・ケア・プランニングの意義と重要性について説明できる</p> <p>1) アドバンス・ケア・プランニングとは</p> <p>2) 高齢がん患者にとってのアドバンス・ケア・プランニングの意義</p> <p>3) 看護師が行うアドバンス・ケア・プランニングの重要性</p> <p>【演習】</p> <p>1. グループワークを通して、高齢がん患者のアドバンス・ケア・プランニングをふまえて、療養場所と治療に関する意思決定支援策を見出すことができる</p>	
備考		

科目名: 高齢がん患者の家族と家族ケア	担当講師	森下 幸子 (高知県立大学看護学部 特任准教) 中井 美喜子 (高知県立大学看護学部助教 家族支援専門看護師)
	講義時間数	講義1.5 演習1.5
	講義日時	平成30年11月24日(土) 9:00~10:30 10:40~12:10
	講義方法	講義/演習
目的	高齢がん患者の家族の特徴を理解し、家族を援助の対象として必要な援助が提供できる能力を身につける	
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の家族の特徴を説明することができる <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の家族の形態と役割 2) 介護に対する意識と現状 3) 介護者の健康と介護負担 2. 高齢家族の一員ががんであることが、家族に及ぼす心理・社会的影響について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢がん患者の家族に及ぼす心理・社会的影響 2) 高齢がん患者の家族が直面する問題 3) 家族アセスメント 3. 高齢がん患者の家族への看護について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 看病・介護をしている家族員の特性に応じた看護 2) 家族が活用できる社会資源 <p>【演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. グループワークを通して事例について家族アセスメントを行い、家族に必要な看護援助を考え、計画立案ができる <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族アセスメントができる 2) 家族の持つ問題を明らかにし、必要な看護援助の計画が立案できる 	
備考		

科目名: 高齢がん患者の栄養	担当講師	渡邊 慶子 (高知学園短期大学 生活科学学科長)
	講義時間数	講義2.0
	講義日時	平成30年12月8日(土) 14:50~16:50
	講義方法	講義
目的	在宅療養を行う高齢がん患者の栄養管理に必要な知識を身につける	
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に起こる栄養障害について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者にとっての食べることの意味 2) 加齢による飲食に関連する機能変化 2. 高齢がん患者に起こりやすい栄養障害について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの治療による要因 2) がんの進行に伴う代謝変化について 3) がんの進行に伴う悪液質について 3. 高齢がん患者の栄養状態のスクリーニングについて説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養スクリーニングについて(データをもとにしたスクリーニング) 2) 栄養状態のアセスメント 4. 高齢がん患者の栄養管理について説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの治療や症状に応じた栄養補給 2) がんの治療や症状に応じた栄養機能食品 3) 栄養管理のための多職種との連携 	
備考		

科目名: 高齢がん患者の看護倫理	担当講師	庄司 麻美 (高知県立大学看護学部 助教 がん看護専門看護師)
	講義時間数	講義1.5 演習2.0
	講義日時	平成30年12月8日(土) 9:00~11:30 12:30~14:30
	講義方法	講義/演習
目的	高齢がん患者の在宅療養中に生じる倫理的な課題を理解し、看護職として倫理的に対応できる能力を身につける	
目標	<p>1. 高齢がん患者への在宅看護実践において、道徳的判断の中心となる倫理に関する基本的な知識が理解できる</p> <p>1) 倫理原則について理解できる</p> <p>(1) 善行と無害</p> <p>(2) 正義</p> <p>(3) 自律</p> <p>(4) 誠実</p> <p>(5) 忠誠</p> <p>2) 看護上の倫理的概念について理解できる</p> <p>(1) アドボカシー</p> <p>(2) 責務</p> <p>(3) 協力</p> <p>(4) ケアリング</p> <p>2. 高齢がん患者の在宅での看護実践において生じやすい倫理的課題について説明できる</p> <p>3. 高齢がん患者の意思決定に関連するガイドラインの概説ができる</p> <p>1) 高齢者の意思決定プロセスに関するガイドライン</p> <p>2) 人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン</p> <p>【演習】</p> <p>1. グループワークを通して、高齢がん患者の在宅での看護実践において生じやすい倫理的課題の解決に向けた展開ができる</p> <p>1) 経口摂取を希望する患者の倫理的問題を明確にすることができる</p> <p>2) 経口摂取が困難となった場合に、医療者としての対応を倫理的に考え、具体的な解決策を導き出すことができる</p>	
備考		

科目名: 高齢がん患者のエンド・オブ・ライフケア と在宅での看取り	担当講師	弘末 美佐 (凶南病院 がん看護専門看護師)
	講義時間数	講義3.0 演習2.0
	講義日時	平成30年12月9日(日) 9:00~12:00 13:00~15:00
	講義方法	講義/演習
目的	高齢がん患者がその人らしい人生の最期を生き抜くことの意味を理解し、必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	<p>1. 高齢がん患者のエンド・オブ・ライフケアについて説明できる</p> <p>1) エンド・オブ・ライフケアの定義</p> <p>2) 高齢がん患者のエンド・オブ・ライフケアの特徴(現状)</p> <p>2. 高齢がん患者のエンド・オブ・ライフケアにおける多職種連携の重要性について説明できる</p> <p>1) 高齢がん患者の社会資源を活用した多職種連携</p> <p>2) エンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割と看護ケアの実際</p> <p>3. 死にゆく過程で生じる身体的・精神的・スピリチュアルな変化について説明できる</p> <p>1) 身体的・精神的・スピリチュアルな変化</p> <p>2) 予後予測</p> <p>4. 在宅において尊厳ある死を迎えるための看取りの看護について説明できる</p> <p>1) 看取りにおける本人・家族の意向の尊重について</p> <p>2) 看取りの看護ケアの実際</p> <p>3) 患者を看取る家族への看護の実際(高齢がん患者の家族の特徴を踏まえ)</p> <p>4) エンゼルケア</p> <p>5. グリーフケアについて説明できる</p> <p>1) 悲嘆とは</p> <p>2) 悲嘆のプロセスとは</p> <p>3) 病的悲嘆とは</p> <p>【演習】</p> <p>1. グループワークを通して、在宅における高齢がん患者の看取りに向けた看護援助ができる</p> <p>1) 在宅または病院での看取りのための看護計画が立案できる</p> <p>2) 在宅または病院での看取りにおける家族への看護ケアができる(ロールプレイ)</p>	
備考		